

第 275 回つくば医療福祉事例検討会報告

平成 26 年 9 月 19 日

(茨城県在宅医療・介護連携拠点事業及びつくば市地域包括支援課「在宅困難事例検討会」との共催)

場所：つくば市役所 2 階会議室

出席者：80 名

医師会：古徳、飯村、荻原、柴原、青柳、志真、渡辺、児玉、日比野、成島

歯科医師：飯村、室生（医師）

内容：つくば市内地域密着型サービス事業所（介護支援専門員、管理者、看護師、介護福祉士、社会福祉士、理学療法士）、訪問看護ステーション、つくば市地域包括支援課、つくば市社会福祉協議会から多数出席

今回は出席者を地域別に各職種偏りがないう 5 グループに分け検討を行い、最後に各グループから検討報告をしていただいた。目的は困難事例の検討技術習得と、多職種連携を深めるの 2 点。

事例は①91 歳男性で自己主張が強く関係者の助言を受け入れない独居高齢者の支援について、②79 歳女性で金銭管理が出来ず必要なサービスを受けることができない高齢者世帯の支援について。

問題点としては①事例は在宅酸素使用しながら一人で自動車運転すること、酸素流量の自己調整、適切な栄養摂取、②事例は金銭感覚が乏しく管理できない、知的障害があり被害者意識が強く自己中心的言動が多い事例の関わり方、適切な生活環境の整備のサービス導入するには、ファミリーケアの視点として夫の介護サービス導入はが挙げられた。

各グループから多数意見が出たが、①では信頼関係を有する主治医に加え、必要に応じ往診等対応可能なかかりつけ医を見つけ通院をなくし、自己判断での酸素調整には医療面での監視を可能とし、さらにサービス担当者に長男・親族の関わりを求めていく（高齢であり医療度も高い事例では最終的には介入が不可避）。②では生活維持・介護サービス利用目的の必要経費を文書化し、浪費に制限を加え、移動販売業者・タクシー業者に事例の事情説明し不要な出費を抑えることで、有効な介護サービス導入を図るなどの意見が挙げられた。

世話人 つくば市医師会在宅ケア・介護保険委員会  
連絡先：成島 839-2170 日比野 873-3733